

AGU 青山学院大学 NEWS

Vol. 17

AGUニュース第17号
[2003年5月~6月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111 (代表)
URL. <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



相模原キャンパス開学記念オールカラー特集号

特集



新しい青学の歴史が始まる
開学までのPhoto History
Campus まるごとViews
青学の教育・研究も変わる!

AGU TOPIC
2003年度一般入学試験結果報告

TOPICS

「ニューラルネットワーク」により
人間の感情を簡単に認識
パリ日本館より近況報告!! (文学部フランス文学科 西澤教授)

報告・お知らせ

専門職大学院事務室開室
「学生起業家選手権」で本学学生グループが優秀賞

誌上公開講座

vol.17 日本企業再生の条件
～ジャパン アズ ナンバーワンは復活するか～

INFORMATION

2003年度 地区父母懇談会のお知らせ
相模原キャンパス開学記念シンポジウム

本学学長、院長、そして相模原市長より
メッセージをいただいています。

「文理融合型」の新しい教育研究ステージの始動に際して、

新しい青学の歴史が始まる

16万平方メートルの広大な敷地に、
21棟の建物がゆつたりと配置された
相模原キャンパス。

新キャンパスに寄せて

2003年4月、相模原キャンパス開学の日を迎えることができました。設置構
想に積極的に取り組んでいただいた教職員のみならず、キャンパス名称をはじめ
貴重なアイデアを提供してくれた学生のみならず、本学の移転を歓迎してく
ださり、多大なご協力をいただいた相模原市の方々、設計・工事関係者のみな
さん……その他すべての関係者に、あらためて深い感謝の気持ちを捧げます。

青山学院大学には、大学院生を含め約2万人近くの学生が在籍していま
すが、今年度からは、そのうち昼間部（心理学夜間主コースを除く）の人文・
社会科学系学部1・2年生と大学院を含む理工学部の全学生の計約1万人が
「文理融合型」キャンパスで新学期を迎えることになりました。現在、社会
のあらゆる分野で「文理融合型」の人材が求められています。相模原キャン
パスがめざすのは、そうした新しい社会の創造に貢献する優れた人間の養成
です。また、文・理を超えた学生と教員の交流の中から、現代社会が抱えるさ
まざまな問題を解決に導く多くの発見・知見が誕生することを期待しています。

そのため、画期的な全学共通教育システム「青山スタンダード」をスタートさ
せるなど、単に学部を同居させるだけではない真の「文理融合」をめざし、す
べての教職員が「ここから青学の歴史が始まる」という意気込みで教育と研
究に取り組んでいきます。

そして地域に開かれたキャンパスとしての取り組みを進めていくことも本学
の責務です。折しも4月1日より、相模原市が中核都市に昇格。本学も市民
のひとりとしての自覚を持ち、地域のみならずと力を合わせながら発展をめざ
したいと思っています。

どうか学生のみならず、一人ひとりが「自分たちで新しい青学を創る!」と
いう意識を持ち、積極的に学生生活に取り組んでください。力を合わせて、新
しい青学の歴史の第1ページを記していきましょう!

学長 半田 正夫



相模原キャンパス献堂式にて（於：ウェスレー・チャペル）
左：小川 勇夫 相模原市長 中央：半田 正夫 学長 右：深町 正信 院長

Welcome to Sagamihara!

小川 勇夫 相模原市長

待望久しかった青山学院大学相模原キャンパスがいよいよ開学いたしました。お祝いを申し上げますと
ともに、市民ともども心から歓迎いたします。

相模原キャンパスは、広大な敷地にシンボルとなるウェスレー・チャペルを中心に、周辺の環境にもご配
慮いただいた、すばらしいキャンパスだと思います。相模原の新たなランドマークとして市民からも親しま
れる存在になってほしいと願っています。

さて、本市では、「輝きと愛があふれる人間都市 さがみはら」を都市像として、次世代に誇れるまちづく
りを進めています。相模原キャンパスの開学により、約1万人の学生のみならずのエネルギーが、本市によ
り一層の「輝きと愛」を与えてくれるものと期待しています。また、学生のみならずには新しいキャンパスで、
充実した有意義な学生生活を送られますよう望んでいます。

今後、産業活性化のための産学連携や市民の生涯学習ニーズに応える各種公開講座の開催などをはじめ
とめとして、さまざまな分野でのご協力、連携をお願いしたいと考えています。本市は4月、中核市へ移行し
新たなスタートを切りました。相模原キャンパスの開学と時を同じくして、新たな出発点に立ったわけですが、
お互い良きパートナーとして、手を取り合い、共にこの21世紀を歩んでいきたいと思ひます。

相模原キャンパスの開学を祝う

2003年4月、青山学院大学の新しい歴史の1ページがついに開かれました。
開学に先立つ3月29日（土）、この日はあいにく、朝から曇天の空模様で
したが、大勢のご来賓と関係者並びに建設関係者の見守りの中で、新しいキャン
パスの「定礎式」が行われました。次いで、新しい大学礼拝堂において、大
きな喜びと感謝のうちに、厳粛に「献堂式」が挙行されました。

相模原キャンパスを訪れて、最初の印象は、実に広々として美しく、緑の多
い静かなキャンパスである、ということです。校舎はいずれも素晴らしい景観を
もち、落ち着いた品のある建造物が建ち並び、大学の教育研究の環境とし
ては誠に恵まれたものであります。教室は以前のように大きなサイズでなく、
最大でも400人位収容の中教室であり、理想的な少人数教育を目指してい
ることが確認できます。

さらに、教員と学生、あるいは学生同士がゆつくりと交流親睦できるように、
いずれの建物も、あちこちにラウンジが設けられています。そして、カフェテリア
のゆつたりした、心暖まる空間が印象的です。皆がここで折々に学問、研究

のストレスを解き、心ゆくばかり人生を語り合い、また社会、文化、政治を論じ
合う場となるだろうと思うと、大学生活への期待もはずみずみです。

J、K、L棟を中心とした理工学部では、先端技術研究開発センターを含
めて、ここから未来社会に貢献する科学技術の開発や、世界的な発明、発
見も生み出され、学生たちの期待にも応えることが出来ると、心から喜ぶもの
です。そのほか、新しいキャンパスで目を引くのは、アリーナや神宮野球場を思
い起こさせる素晴らしく立派なスタジアムです。ここで、多くの学生たちが練
習を重ね、神宮野球場などで大いに活躍し、やがて日本のみならず世界でも
活躍するスポーツ選手も出現すること間違いなしと実感できました。

21世紀の青山学院大学の新しい知の創造と、建学の精神に基づく人間
教育が、ここに力強く開始されたことを祝い感謝するものです。

院長 深町 正信

新校地購入から完成まで……。

写真を中心に相模原キャンパス開学までの道程を振り返ります。

2000.3 相模原キャンパス校地を購入



旧新日鐵正門(現在の相模原キャンパス正門)

2000年3月21日(火)に新日本製鐵株式会社相模原研究所跡地の売買契約を締結。翌22日(水)に、青山キャンパスで用地購入に関する共同記者会見を開催し、その模様は朝日、読売、神奈川等の新聞各紙で報道された。

共同記者会見風景



各種報道機関にプレスした文書



2001.2 実施計画スタート グランドデザイン決定

前年より「新校地基本計画委員会」を中心とするいくつかの検討グループによる、21世紀にふさわしい新キャンパス構築に向けての計画が検討され、2001年2月、基本計画がまとまった。また1月19日(金)には緑が丘グラウンド建設予定地において、鉄入式が執り行われ、建設工事がスタートした。



2000

2001

2002

2003

2003.4
開学

2000.7

相模原キャンパス利用方針発表

新しいキャンパスが、人文・社会科学学部と理工学部の学生と教員が利用する「文理融合型キャンパス」となることを、半田正夫学長が正式発表。また、同年6月には日本エヌ・シー・アール株式会社ラーニング・センター跡地を購入し、調印式が行われた。相模原キャンパスから約3kmの距離にあるこの用地は、後に新しい大学グラウンド「緑が丘グラウンド」として活用されることに決定した。



共同記者会見風景

2001.7 鉄入式

2001年7月25日(水)、相模原キャンパスの鉄入式を挙げる。同日に相模原キャンパスに先立ち完成した緑が丘グラウンドの献納式も行われた。



鉄入式



緑が丘グラウンド正門

2001.1 建設前の相模原キャンパス校地



2001年1月当時(航空写真)

2001.8 建築工事が着工

2001年8月より、建築施工11社による建設工事がスタート。



S棟屋上より

2001.9 キャンパス名称を決定

2000年10月より学内AGUニュース配布スタンド、各キャンパス学生課等で名称を公募。学生・教職員・卒業生から、窓口受付、郵送やメールなど600件以上の応募があり、投票の結果「相模原キャンパス」と決定した。

2001.10~12

開学に向けたさまざまなイベントを開催

2001年10月から12月にかけて、相模原市での記念講演会をはじめ、青山キャンパスでの「高校1・2年生のための新キャンパス説明会」、そして「相模原市と青山学院大学の共生」をテーマにした「青山学院大学フェスティバル in さがみはら」を開催。開学に向けて、地域住民の方々や高校生にアピールした。



相模原キャンパス模型展示

2002.11

「相模原新キャンパス説明会」開催

11月10日(日)青山キャンパスにおいて「相模原新キャンパス説明会」が開催された。当日は、新キャンパス概要紹介のほか、最新のキャンパス風景を撮影したビデオの上映、新キャンパス模型とパネルの展示などが行われ、本学に対して意識の強い熱心な高校生とご父母1,460名が来場した。

2002.3 建設中

17カ月間に渡った建設工事は、事故もなく、ほぼスケジュール通り順調に進行。写真は開学1年前の工事状況。



C棟(ウェスレー・チャペル)



2002年3月当時(航空写真)

2003.3

相模原キャンパス定礎式・献堂式

相模原キャンパス完成に先立ち、2003年3月29日(土)13時20分から、B棟メディアセンター前において定礎式を挙げる。引き続き14時から、C棟ウェスレー・チャペルにおいて献堂式が行われた。献堂式では施工11社への感謝状贈呈などのほか、大学聖歌隊の奉唱や大学ハンドベル・クワイアの奉鐘も披露された。厳かな雰囲気の中、相模原市長や地域の方々を含む参加者全員で新キャンパスの前途を祝った。



相模原キャンパス最寄り駅であるJR横浜線淵野辺駅では、駅舎の改修工事が行われ、以前に比べて東口改札周りが拡張された。



開学当初の淵野辺駅



2003.1 既存キャンパスからの移転開始

前年12月には厚木キャンパスの記念樹移植、ウェスレー・チャペルのステンドグラス・カリーオン、パイプオルガンの移設も始まった。開学を目前に控えた2003年1月、厚木・世田谷キャンパスからの移転作業が開始された。



G棟(厚生棟)



2003年1月当時(航空写真)

開学 CampusまるごとViews

SAGAMIHARA

広大な相模原キャンパス——。そのすべてを知るためには、まだまだ時間がかかりそう。そこで、主な施設・設備を写真とコメントで紹介します。また、新キャンパスの“使い心地・居心地”について、新キャンパスに通学している学生たちに直撃インタビュー！さて、あなたが、まだ体験していない施設・設備はどれですか？



ビュー・ラウンジからの眺め



M棟 (音楽部室棟)



V棟 (スタジアム)

●M棟 (音楽部室棟)
1階は武道系クラブが使用する道場。2～3階には防音設備を備えた音楽系クラブ用の部室があります。また、4階にはちょっとしたライブコンサートが行える小音楽ホールを2室設置しています。

●V棟 (スタジアム)
主として硬式野球部の練習や練習試合に使われ、リーグ戦が行われる神宮球場と同じ仕様になっていることが特色。観戦席も設置されています。

●B棟 (メディアセンター)

【ビュー・ラウンジ】
最上階(9階)にある総ガラス張りのビュー・ラウンジは相模原キャンパス自慢のスポットのひとつ。キャンパス全体はもちろん、天気の良い日は、丹沢や遠く富士山まで見渡せます。

【CALL教室・情報実習室】
3～4階の12教室が、フルデジタルのマルチメディア学習システムを導入したCALL教室。通常のLL機能に加えインターネットやマルチメディア教材を用いた最新の授業形態を実現しています。また、4～5階、およびN棟6階に、最新の教育用ソフトを備えた情報実習室を設置。授業がない時間帯は、オープン利用となっています。

【万代記念図書館・メディアライブラリー】
1～3階には約10万冊の開架図書があり、自由に閲覧可能。また、地下に設置された自動書庫には、約25万冊の蔵書が収納され、各フロアの検索用端末から出庫指示をすれば、各階カウンターの受け取り口のところに希望の書籍が自動的に運ばれてきます。また、3階には、メディアライブラリーと共用しているAVコーナーがあり、音声録音ブースのほか、各種視聴覚教材対応のブースを多数設けています。図書館全体の閲覧席は約1,000席。平日は夜8時まで開館しています。



ビュー・ラウンジ



CALL教室



F棟 (ラウンジ)

●D・E・F棟 (教室棟)

【学生ラウンジ】
教室棟の各フロアに多数設けられた学生ラウンジは飲食もOK。ランチや自習、友人との歓談……学生のためのフリースペースです。F棟1階には、大型の学生ラウンジがあり、早くも学生たちの交流の場として活用されています。

新しいキャンパスに来て、部室がきれいになっただけでなく、グンと広くなったので、部員一堂喜んでます。



部室

●G棟 (厚生棟)

【部室】
3～5階はクラブ・サークルなどの団体が部室として利用。各部室は冷暖房完備。そのほか、多人数でのミーティングなどに使える活動室(洋・和室)も各フロアに設置されています。

フローリングの内装や外に見える樹木など、明るく開放的な雰囲気が最高。メニューの品揃えも満足しています。(2年・女子学生)

レジが広がって便利になりました。2階はドリンク類も充実してますね。あと、2階の窓からスタジアムがよく見えるので、硬式野球部の練習試合の時は、ここから応援しようと思っています。(2年・男子学生)

●C棟 (ウェスレー・チャペル)

月曜から土曜の10時30分から礼拝を行っています。館内には広いラウンジが設けられ、学生たちの憩いの場、交流スペースになっています。



C棟 (ウェスレー・チャペル内)

●G棟 (厚生棟)

【カフェテリア】
1階はレジャー方式のコンビニコーナーと、ラーメンやカレーなどが自慢の定食コーナー。2階は日替わりパスタやワンディッシュが充実したカフェテリアコーナー。いずれもICカード機能を備えた学生証にあらかじめ入金しておけば、レジや自販機で使用可能です。



G棟 (カフェテリア)



【学生センター】B棟 (メディアセンター) 1階 履修の相談、各種手続き、落とし物、アルバイト探しなど、学生のさまざまな相談に応じる総合案内窓口です。学生が気軽に利用できるように、明るくオープンなスペースになっています。



インフォメーションカウンター付近

ICカードを使った入館システムや自動書庫など、ハイテク満載の図書館になって、とても驚いています。(2年・女子学生)

なんだか本を借りることも自体が楽しいですね。閲覧席の居心地も満点！(1年・女子学生)



B棟 (メディアセンター) 吹き抜け

施設・設備などキャンパスのハード面だけではなく、
教育・研究のソフト面でもさまざまなリニューアルが進行中!

ここでは来年度に予定されている
理工学部・理工学研究科の改組計画と、
開学と同時にスタートした「青山スタンダード科目」を紹介します。



理工学部長
理工学研究科長
魚住清彦

新キャンパスで、ますます進化する 理工学部・理工学研究科の 改組を計画

この度、理工学部・理工学研究科は、無事、相模原キャンパスへの移転を果たしました。新キャンパスでは、世田谷キャンパス時代よりスペースが約1.5倍に増えるなど、教育研究環境が大きくグレードアップしています。ここ数年、本学部では、秋光純教授による新しい高温超伝導体の発見(2001年)をはじめ、社会に大きなインパクトを与える数々の研究成果を挙げてきました。そして昨年、先端技術研究開発センター(CAT)をベースにした分野横断型の研究プロジェクト「エネルギー効率化のための機能性材料の創製」が文部科学省が推進する「21世紀COEプログラム(化学・材料科学分野)」に選定されました。しかし、こうした実績に甘んじることなく、新キャンパスではこれ

まで以上に未来を見据えたチャレンジをしていきたいと思っています。新キャンパスで迎えた今年度は、2000年度よりスタートした「情報融合系」の3学科、機械創造工学科・経営システム工学科・情報テクノロジー学科の完成年度でもあります。そして、これら3学科が初めての卒業生を送り出すことをひとつの機に、2004年4月より、物理学科と化学科および大学院理工学研究科の大幅な改組を行うことを計画しています。そのアウトラインは、以下の通りです。また、理工学部・理工学研究科では、地域における産学連携を進めると共に、単位互換や共同研究など、近隣の他大学との連携も深めていきたいと考えています。さらに「進化」する「青学の理工」に、どうかご期待ください。



左よりJ・K・L棟

●理工学部「理学系」改組(計画)

理学系の物理学科・化学科の教育体制とカリキュラムを全面的に見直し、新たに「物理・数理学科(仮称)」 「化学・生命科学科(仮称)」として生まれ変わります。新しい2学科には従来の数学教室や全学共通科目(数学、物理、化学、生物)の各担当教員も参加。数学、物理学、化学といったベーシックな学問体系を重視しつつ、それらの境界領域をもカバーした教育研究体制とカリキュラムを構築し、新しい時代のニーズに対応した理学教育を展開します。

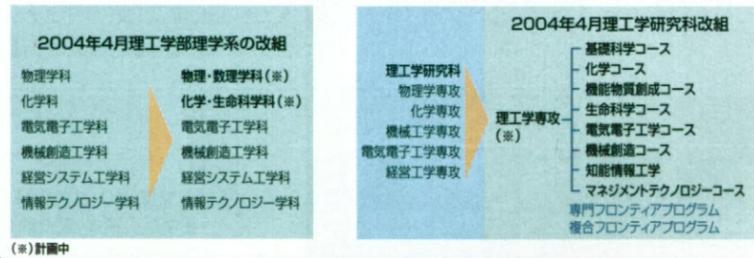
●大学院「1専攻8コース」に改組(計画)

大学院は現在の5専攻制を、「1専攻(理工学専攻)8コース制」に再編成する予定です。この改組により、理工学部全学科の専門分野をカバーするとともに、最先端領域の研究や、複合的な視点からの分野横断型の研究を行う体制づくりを強化。そのため、各専門分野の最先端の研究を行う「専門フロンティアプログラム」と、環境問題などに、科学技術の複合的な視点からアプローチする「複合フロンティアプログラム」を設けます。

大学院の理工学専攻設置コースのうち、機能物質創成コースは、昨年「21世紀COEプログラム(化学・材料科学分野)」に選定された先端技術研究開発センター(CAT)をベースにした研究プロジェクト「エネルギー効率化のための機能性材料の創製」と連動。また、生命科学コースは、現在構想中の「文理融合型」新学部設置を視野に入れた研究体制を整えていく予定です。

※文部科学省に届出または認可申請の結果、内容に変更が生じる場合もありますことを予めご了承ください。

理工学部・理工学研究科が変わる!



K棟(先端技術研究開発センター・CAT)

K棟1・2階は最先端の研究が行われている実験施設であり、共同利用ができる機器分析センターおよびクリーンルームも設置されています。昨年、文部科学省より「21世紀COEプログラム」研究拠点として選定されたことにより、トップレベルの研究と若手研究者育成のためのプログラムを推進しています。



CAT内クリーンルーム

学部や学問分野の枠組みを越えて、本学独自の教育を展開する新しい全学共通教育システム「青山スタンダード」。今回は、その中でも特に注目の2科目を詳しく紹介します。

フレッシュャーズ・セミナー

異なる分野の学生が集まる
少人数クラスで実施

「フレッシュャーズ・セミナー」とは、1年次生を対象にした少人数(約20名)・セミナー形式の選択科目です。どの学部・学科に所属しているかに関係なく、大学での学問研究に最低限必要なものの見方や考え方、あるいは分析、調査、プレゼンテーションなどの技法に関する基礎を身につける授業です。クラスは、さまざまな学部・学科の学生で構成され、各人が異なった興味や関心、異質なバックグラウンドを持っていることを前提に行われます。そして、ひとつ、あるいは複数の課題について意見を交わしながら、広い視野の形成と的確な自己表現能力の養成を目指します。

このセミナーを担当するのはすべて本学の専任教員です。また、セミナー形式なので、セミナーに参加する学生と教員との間、または学生同士の双方向的なやりとりを軸に学習が展開されます。

「知のマップ」と「学問の作法」を身につけよう!

このように「フレッシュャーズ・セミナー」は、各学部・学科の「専門ゼミ」の1年生版でも、単なる「教養ゼミ」でもありません。各授業のテーマは、特定の専門分野に見えても、その先には広い裾野を持つ「知のマップ」が広がっています。このマップは、やがてそれぞれの専門分野の世界に入っていく際に「学問的な作法」の道しるべとなるでしょう。

教員やさまざまなバックグラウンドを持つ学生同士のコミュニケーションを通して、学問的な思考の面白さを存分に感じられるようになっていきます。自分と「同じ」種類の人間ではなく、「異なる」人間との間に交わされる知的コミュニケーションこそ、対話能力や類推力などを磨いたり、これまで気づかなかったもの見方や考え方を見出す絶好のチャンスです。



フレッシュャーズ・セミナー授業風景

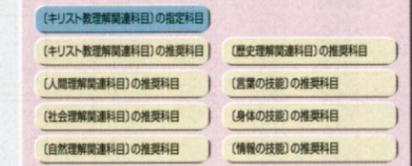
Close up! 青山スタンダード科目

フレッシュャーズ・セミナー

コア科目



テーマ別科目



■必修 ■選択必修 ■選択

情報スキルI

基礎的情報スキルを確実に習得

文系・理系を問わず、現代の大学生にとって「読み・書き」に相当する情報リテラシースキルのトレーニングは、従来の大学におけるひとりの担当教員と少数の助手による授業スタイルでは、なかなかめざましい効果をあげることはできませんでした。そこで、本学情報科学研究センターでは、相模原キャンパス開学とともに新入生全員を対象に開催する初心者向けの「IT講習会」をスタート。その大きな特色は、すでにスキルを身につけた上級生が、自学習を進める新入生をサポートする「情報アシスタント(IT-A)制度」を採用したこと。また、学生の習熟度に応じてステップアップ形式のスキル評価プログラムを設定。受講者のレベルに応じて、一人ひとりをきめ細かくサポートできる教育プログラムを整えています。スキル評価は、合計13単元から構成されており、すべての単元をクリアすると、その学生に対して「IT講習会修了証」が発行されます。各学部の教員

スタッフの評価と合わせて、青山スタンダード科目・技能コア「情報スキルI」(必修科目)の単位として認定されます。(理工学部を除く)

IT-Aの親身なサポートによるスキルチェック

新入生は、IT-Aのサポートを受けながら、自学習により各種スキルを自主的に習得。次段階へのステップアップに際して、一人ひとりのスキルレベルをチェックして、到達度を判定するのもIT-Aの役割です。今年度より



IT-Aは情報スキルアップの強い味方!

IT-Aを務める学生には、理工学部だけではなく、コンピュータに詳しい人文・社会科学系学部の学生もいます。その全員が集中的に研修を受講し、新入生の指導や学習到達度の判定などを適切に行えるよう訓練されています。高いスキルを持ち、学習上の疑問や悩みなどを気軽に相談できるIT-Aの存在は、新入生にとってスキル向上のための心強い味方になってくれることでしょう。

2003年度一般入学試験結果報告

昼間部で8年振りの志願者40,000人台へ!

進化する青学が受験生に注目されています。

2003年4月に開学した相模原キャンパスをはじめ、新しい時代に向けたさまざまな改革を積極的に進めている青山学院大学。2003年度一般入学試験では、そうした本学のチャレンジが多くの受験生に支持され、多くの大学が志願者を減らす中、3年連続の志願者増となりました。その結果、昼間部の志願者が1995年度以来8年振りに4万人を突破。昼間部の一般入学試験

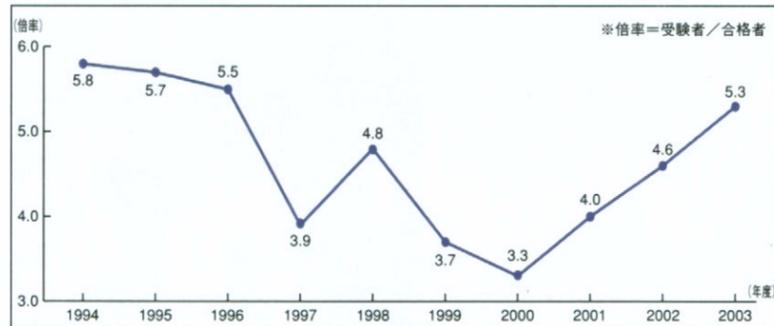
の平均倍率が5.0倍を越えたのも7年振りのことです。さらに、全国の私立大学における3年連続志願者増加ランキングでは、第3位となっています。

今後も法科大学院(ロースクール)の設置や理工学部の学科改組計画、青山キャンパス再開など、本学の改革は続きます。受験生にとって魅力ある大学であることはもちろん、在学生や卒業生にとって誇りとされる「日本一の大学」をめざして…青山学院大学はさらに進化します。

一般入学試験志願者数推移



一般入学試験倍率推移(昼間部)



3年連続志願者数増加大学ランキング(昼間部) ※広告株式会社集計(3月27日付)

順位	大学名	3年間の増加総数	2003年度	2002年度	2001年度
1	早稲田大学	17,213	10,376	3,882	2,955
2	中央大学	12,761	602	1,567	10,592
3	青山学院大学	10,501	2,429	3,298	4,774
4	立教大学	10,266	7,443	1,219	1,604
5	近畿大学	9,672	2,786	5,020	1,866

●は大学入試センター試験導入校。

2003年度一般入学試験結果

学部・学科・方式	募集人員	志願者数	合格者数	倍率
教育A	約75	2,042	223	8.5
教育B	約10	515	32	15.1
教育 合計	約85	2,557	255	9.3
英米文A	約190	2,107	※502	3.9
英米文B	約50	853	180	4.4
英米文 合計	約240	2,960	682	4.1
フランス文A	約75	984	246	3.7
フランス文B	約10	76	19	3.4
フランス文 合計	約85	1,060	265	3.7
日本文A	約85	1,359	296	4.2
日本文B	約10	292	40	6.9
日本文 合計	約95	1,651	336	4.6
史	約80	1,503	319	4.4
心理(昼間主)	約55	1,306	183	6.7
心理(夜間主)	約25	347	※49	6.6
心理 合計	約80	1,653	232	6.6
合計	約665	11,384	2,089	5.1
経済学部				
経済A	約300	6,331	817	6.8
経済B	約100	1,819	300	5.3
合計	約400	8,150	1,117	6.4
法学部				
法A	約290	4,234	776	4.9
法B	約30	289	45	5.8
合計	約320	4,523	821	5.0
経営学部				
経営A	約320	7,315	1,008	6.7
経営B	約30	239	76	2.9
合計	約350	7,554	1,084	6.5
国際政治経済学部				
国際政治A	約56	1,337	※214	5.4
国際政治B	約10	140	20	6.2
国際政治C	約15	211	44	4.2
国際政治 合計	約81	1,688	278	5.3
国際経済A	約67	1,207	※184	5.8
国際経済B	約23	379	※56	5.9
国際経済C	約20	183	35	4.8
国際経済 合計	約110	1,769	275	5.7
合計	約191	3,457	553	5.5
理工学部				
物理	約60	1,122	※292	3.6
化	約60	1,132	305	3.4
電気電子工	約70	1,094	293	3.5
機械創造工	約50	1,131	※190	5.6
経営システム工	約50	906	180	4.7
情報テクノロジー	約50	913	221	3.9
合計	約340	6,298	1,481	4.0
昼間部総計	約2,266	41,366	7,145	5.3

学部・学科・方式	募集人員	志願者数	合格者数	倍率
文学部第一部				
教育	約40	399	※103	3.4
英米文A	約40	224	※72	2.6
英米文B	約20	79	※44	1.5
英米文 合計	約60	303	116	2.2
合計	約100	702	219	2.7
経済学部第二部経済	約150	950	343	2.4
経営学部第二部経営	約120	675	※240	2.4
第二部総計	約370	2,327	802	2.5
昼間部・第二部総計	約2,636	43,693	7,947	5.0

倍率=受験者/合格者 補欠合格を含みます。合格者に※印がある場合、補欠を含みます。

出身高校別合格者数ランキング BEST 100

順位(昨年度順位)	高校名(○は私立高等学校)	合格者数	順位(昨年度順位)	高校名(○は私立高等学校)	合格者数
1. (1) →	桐蔭学園(神奈川)	162	50. (一) /	芝(東京)	21
2. (2) →	桐光学園(神奈川)	81	50. (23) \	頌栄女子学院(東京)	21
3. (4) /	山手学院(神奈川)	63	50. (17) \	國學院(東京)	21
4. (3) \	湘南(神奈川)	51	50. (81) /	世田谷学園(東京)	21
5. (17) /	横浜翠嵐(神奈川)	42	50. (15) \	國學院大学久我山(東京)	21
6. (10) /	外語短期大学付属(神奈川)	41	50. (19) \	桜美林(東京)	21
7. (37) /	南多摩(東京)	39	50. (60) /	穎明館(東京)	21
8. (11) /	希望ヶ丘(神奈川)	37	61. (37) \	千葉東(千葉)	20
9. (6) \	横浜緑ヶ丘(神奈川)	36	61. (一) /	大泉(東京)	20
9. (67) /	多摩(神奈川)	36	61. (50) \	明治学院(東京)	20
9. (37) /	横浜共立学園(神奈川)	36	61. (95) /	渋谷教育学園渋谷(東京)	20
12. (5) \	平塚江南(神奈川)	35	61. (一) /	錦城(東京)	20
12. (11) \	小田原(神奈川)	35	66. (一) /	栃木(栃木)	19
14. (19) /	柏陽(神奈川)	34	66. (70) /	熊谷(埼玉)	19
14. (11) \	茅ヶ崎北陵(神奈川)	34	66. (一) /	大宮(埼玉)	19
16. (23) /	川和(神奈川)	33	66. (53) \	国立(東京)	19
16. (70) /	横須賀・県立(神奈川)	33	66. (85) /	成蹊(東京)	19
16. (7) \	相模原・県立(神奈川)	33	66. (一) /	横浜平沼(神奈川)	19
19. (20) /	桐朋女子(東京)	32	66. (一) /	西南学院(福岡)	19
19. (22) /	洗足学園(神奈川)	32	73. (一) /	宇都宮女子(栃木)	18
21. (70) /	調布(東京)	31	73. (一) /	浦和第一女子(埼玉)	18
22. (67) /	西武学園文理(埼玉)	30	73. (46) \	淑徳与野(埼玉)	18
22. (53) /	鎌倉(神奈川)	30	73. (一) /	木更津(千葉)	18
22. (27) /	大和(神奈川)	30	73. (53) \	専修大学松戸(千葉)	18
22. (46) /	金沢(神奈川)	30	73. (一) /	武蔵・都立(東京)	18
26. (一) /	川越(埼玉)	29	73. (一) /	城北・私立(東京)	18
26. (7) \	厚木(神奈川)	29	73. (一) /	桐朋(東京)	18
26. (19) \	浅野(神奈川)	29	73. (70) \	吉祥女子(東京)	18
29. (32) /	国際(東京)	28	73. (一) /	鶴見(神奈川)	18
29. (16) \	国際基督教大学(東京)	28	73. (一) /	港南台(神奈川)	18
31. (一) /	国分寺(東京)	27	73. (27) \	光陵(神奈川)	18
32. (9) \	市川(千葉)	26	85. (85) →	土浦第一(茨城)	17
32. (37) /	横浜雙葉(神奈川)	26	85. (一) /	日本大学習志野(千葉)	17
32. (32) →	鎌倉女学院(神奈川)	26	85. (46) \	日比谷(東京)	17
35. (53) /	水戸第一(茨城)	25	85. (一) /	富士(東京)	17
35. (11) \	八王子東(東京)	25	85. (27) \	三鷹(東京)	17
35. (95) /	東洋英和女学院高等部(東京)	25	85. (一) /	実践女子学園(東京)	17
35. (一) /	鴎友学園女子(東京)	25	85. (95) /	江戸川女子(東京)	17
35. (23) \	鎌倉学園(神奈川)	25	85. (81) \	攻玉社(東京)	17
40. (85) /	長生(千葉)	24	85. (一) /	神奈川総合(神奈川)	17
40. (37) \	相模大野(神奈川)	24	85. (67) \	サレジオ学院(神奈川)	17
40. (37) \	フェリス学院(神奈川)	24	85. (一) /	森村学園高等部(神奈川)	17
43. (60) /	青山(東京)	23	85. (85) →	公文国際学園高等部(神奈川)	17
44. (一) /	船橋・県立(千葉)	22	85. (一) /	富山中(富山)	17
44. (32) /	町田(東京)	22	85. (一) /	岐阜(岐阜)	17
44. (一) /	成城(東京)	22	99. (95) \	前橋女子(群馬)	16
44. (32) \	秦野(神奈川)	22	99. (一) /	春日部(埼玉)	16
44. (23) \	清泉女学院(神奈川)	22	99. (32) \	佐倉(千葉)	16
44. (一) /	湘南白百合学園(神奈川)	22	99. (60) \	白百合学園(東京)	16
50. (70) /	昭和学院秀英(千葉)	21	99. (一) /	日本大学藤沢(神奈川)	16
50. (37) \	駒場(東京)	21	99. (37) \	暹子開成(神奈川)	16
50. (60) /	立川(東京)	21	99. (53) \	神奈川大学附属(神奈川)	16
50. (一) /	大妻(東京)	21	99. (一) /	新潟(新潟)	16

※補欠合格を含みます。

※昨年度100位以下の高等学校については、昨年度順位を(一)と表記しています。

※黄色された校名は、昨年度より合格者が5名以上増えたことを表しています。

※順位は、左表の100校を対象にしています。

※順位は、左表の100校を対象にしています。

出身高校別合格率ランキング BEST 50

順位(昨年度順位)	高校名(○は私立高等学校)	受験者数	合格者数	合格率(%)
1. (1) →	外語短期大学付属	69	41	59.4
2. (6) /	横浜共立学園	63	36	57.1
2. (3) /	国際基督教大学	49	28	57.1
2. (2) →	フェリス学院	42	24	57.1
5. (一) /	岐阜	31	17	54.8
6. (29) /	吉祥女子	39	18	46.2
7. (一) /	神奈川総合	37	17	46.0
8. (一) /	川越	66	29	43.9
9. (一) /	浦和第一女子	41	18	43.9
10. (44) /	東洋英和女学院高等部	57	25	43.9
11. (一) /	大泉	46	20	43.5
12. (一) /	大妻	49	21	42.9
13. (37) /	前橋女子	38	16	42.1
14. (一) /	船橋・県立	53	22	41.5
15. (31) /	横浜翠嵐	102	42	41.2
16. (一) /	富山中	42	17	40.5
17. (一) /	宇都宮女子	46	18	39.1
18. (一) /	鴎友学園女子	64	25	39.1
19. (50) /	調布	81	31	38.3
20. (4) \	白百合学園	42	16	38.1
21. (18) \	水戸第一	66	25	37.9
22. (11) /	浅野	77	29	37.7
23. (一) /	栃木	51	19	37.3
24. (一) /	千葉東	54	20	37.0
25. (26) /	湘南	138	51	37.0
26. (23) \	国際	76	28	36.8
27. (17) \	鎌倉女学院	72	26	36.1
28. (44) /	多摩	100	36	36.0
29. (19) \	横浜雙葉	73	26	35.6
30. (一) /	芝	59	21	35.6
31. (一) /	柏陽	96	34	35.4
32. (一) /	川和	94	33	35.1
33. (一) /	穎明館	60	21	35.0
34. (一) /	渋谷教育学園渋谷	59	20	33.9
35. (10) \	清泉女学院	65	22	33.9
36. (41) /	昭和学院秀英	63	21	33.3
36. (一) /	新潟	48	16	33.3
38. (40) /	頌栄女子学院	64	21	32.8
39. (34) \	青山	71	23	32.4
40. (7) \	土浦第一	53	17	32.1
41. (44) /	成蹊	60	19	31.7
42. (一) /	城北・私立	57	18	31.6
43. (一) /	湘南白百合学園	70	22	31.4
44. (9) \	八王子東	81	25	30.9
45. (一) /	武蔵・都立	59	18	30.5
46. (22) /	国立	64	19	29.7
47. (一) /	国分寺	91	27	29.7
48. (15) \	立川	73	21	28.8
49. (一) /	大宮	67	19	28.4
50. (一) /	実践女子学園	60	17	28.3
50. (一) /	公文国際学園高等部	60	17	28.3

※補欠合格を含みます。 ※合格率=合格者/受験者

※昨年度50位以下の高等学校については昨年度順位を(一)と表記しています。

※合格率は小数点第2位を四捨五入して表記しています。同率の場合は、小数点第2位で比較の上、順位付けを行っています。

※このランキングは、左表の100校を対象にしています。

※黄色された校名は、昨年度より合格者率が5%以上増えたことを表しています。



半田学長告辞

2003年度入学式開催

4月5日(土)、青山学院記念館において「2003年度青山学院大学入学式」が挙行され、昼間部3,755名、第二部(夜間部)681名、合計4,436名の新生が入学しました。また、同日、青山キャンパスガウチャー記念礼拝堂において、「2003年度青山学院大学大学院入学式」が挙行され、研究科424名が入学しました。



新生でいっぱい記念館

「ニューラルネットワーク」により人間の感情を簡単に認識



右・理工学部電気電子工学科 井出 英人 教授
左・理工学部電気電子工学科 野澤 昭雄 助手

近年、世界的な発見や技術開発で注目を浴びている理工学部。2003年、まず話題を提供したのは電気電子工学科の井出英人教授、野澤昭雄助手らで、人間の快・不快の感情を鼻周辺の温度変化から簡単に認識する技術を開発しました。人間の神経回路網を模擬した「ニューラルネットワーク」を利用したこの研究は、人体の中で感情に伴う温度変化が大きく表れる鼻周辺に着目。その温度変化により、非接触で精度良く快・不快の度合いを推定できるというもので、人間の感情を認識・判断する技術が求められている人間型ロボット、福祉ロボット等への応用が期待されています。「これまでも脳波などを用いた感情推定手法が提案されていますが、こうした手法では測定機器を人体に取り付けるため、計測自体がストレスになってしまいます。そこで、非接触計測による熱画像（サーモグラフィ）を用いた感情推定手法に取り組みようと考えました」（井出教授）

まず予備実験では、複数の被験者にクラシック音楽（快音）や騒音（不快音）を聞かせ、その際に鼻周辺から放射される熱を赤外線センサーで感知。ニューラルネットワークを用いて、鼻周辺の各部位の単位時間あたりの温度変化量を学習させました。続く本実験では、予備実験で得られた各被験者のデータをもとに、被験者全員の快・不快の感情が推定できるかを検証。その結果、高い確率で実際の快・不快と一致することがわかりました。しかし、実験は必ずしもスムーズに進んだわけではなく、試行錯誤の連続だったそうです。

「健康状態やコンディション、測定場所の室温などによって、人間の皮膚温度は容易に変化します。計測にあたってはそのような環境設定に対してつねに留意しなければなりません。また、皮膚温度と感情の状態を対応させる際、温度変化からどのような特徴量をニューラルネットワークの学習に用いるかについて、かなり試行錯誤を重ねました」（井出教授）

今後は「覚醒・睡眠の感情についても同時に推定する技術を確認したい」と語る井出教授。福祉・介護ロボットへの応用にさらなる意欲を燃やしています。

文学部フランス文学科 西澤教授 パリ日本館より近況報告!!

パリ日本館のある、ここパリ国際大学都市の建物（37の館と本部棟）は全部パリ大学に寄贈されたものです。長い間パリ大学はひとつでしたので、内容的には「パリ大学」国際都市の意味合いが強かったのです。ところが5月革命（1968年）などを経て、今やパリ大学は13にまでナンバーが広がり、音楽学校、美術学校、建築学校やいわゆるグランドゼコールなど大学の枠には入らない教育機関に所属する居住者の割合も大きくなりました。2001年12月現在の数字ですが、居住者は126カ国、4,519名にのぼります。まさに国際大学都市になりました。

私がこの大学都市の日本館館長に任命されて赴任したのは、2001年3月19日、とても寒い日でした。ホテルに泊まりながら引継ぎのために移動し、人に会い、会食をして、気がつくといつで日本館の執務室に座っていたという次第。多様というより雑多な用事、予想もしない出来事に追われて、果たして一段落というものがくるのか疑問に思いながら過ごしてきて、なおこの不思議な場所にいます。そして今回、大学・理事会の特別なご理解を得て、もう1年、館長職に留まることになりました。執務室にいて感じる、違和感ではないが不思議な、と表現した感覚、それは大学都市の存在のユニークさと館の歴史に由来するのではと最近思いはじめました。

1920年代初め、第1次世界大戦の苦い記憶の中から、パリに外国人学生・研究者のための大学都市を作ろうという企画が持ち上がり、最初の施設が完成したのが1925年のことでした。日本館は薩摩治郎八氏の私財によって6番目の館として1929年に誕生します。戦争の時代には日本館もドイツ占領下に入り、戦後はフランスの管理下に置かれます。1953年に日仏文化協定が結ばれて日本館の



パリ日本館 館長
西澤 文昭
(文学部フランス文学科 教授)

地位が明確になり、1959年以降独立した外国館のステータスを回復します。ちなみにアジアの館は1968年開設のインド館と日本館のみ、そしてドイツとイタリアは1950年代に自前の館を持ったのです。さて、もう一度創設時に戻ってみます。1929年に日本館ができたこと、これは尋常なことではないのです。日本館の概要を説明するようなことがあると私は必ず、もし1929年に日本館が作られていなかったとしたら、何が失われていたか考えてみてくださいと尋ねることにしています。1929年以降とくに大戦に至るまでの時期に、留学生たちが日常で直面したこと、思索したことを量ってみれば、ことの重さがわかると思います。「時宜を得ることの大切さ」、「ひとつの意志が結実することを可能にした豊かな土壌」という表現よりも、私には現実に存在し続ける建物がもっとも雄弁に語るように思えます。

最後に学生諸君へ一言。日本館では博士課程の大学院生を核として入居者を選考してきました。大学都市には3年間居住することが可能ですから、長期的な研究計画を持った学生に利用してほしいと考えているからです。ですが時代は少しずつ変わっています。ここ数年、交換留学制度が充実してきて、かなりの数の学部学生が大学都市に来るようになりました。大学都市の政策も比較的短期で移動する学生たちを考慮するように転換しつつあります。パリに旅行をする機会があるようでしたらちょっと足を伸ばして大学都市を見てください。青山学院大学の学部生・院生の来訪、入居を心待ちにしています。



日本館外観（庭園より）

パリ日本館メールアドレス:nihonkan.paris@netntt.fr

専門職大学院事務室開設

国際マネジメント研究科が専門大学院から専門職大学院へと移行したことに伴い、本年4月より総合研究所ビル2階の大学院事務室から独立して、5号館1階に「専門職大学院事務室」を開室しました。

国際マネジメント研究科の学生は大半が職業人で、平均年齢も33歳位となっており、夜間も8時までの授業実施等、他の研究科とは違った対応が求められていました。また、前年に文部科学省が実施した、本研究科の実地視察においても「施設が分散しすぎている」との問題点が指摘されていました。それに 대응するためにこのたび5号館を専門職大学院専用(国際マネジメント研究科・法科大学院)として使用できる事となり、従来の大学院事務室から独立して専門職大学院事務室を設置することになりました。

6階に全専任教員個人研究室、5階に合同研究室、学術フロンティアセンター、4階に大学院生研究室、自習室、談話室、3階～2階に教室と、ひとつの棟で研究・教育ができる理想的な環境が整えられ、今後の発展への基盤が整備されています。



5号館入口



事務室側の掲示板コーナー

総合研究所 研究成果発表状況

研究活動を終了したプロジェクトおよび研究活動中のプロジェクトから、以下のとおり研究成果が刊行されました。

2002年度研究成果

研究センター等	研究プロジェクト	研究成果等
法学研究センター	非営利法人法の研究	法学研究叢書 第7号
国際政治経済研究センター	ヨーロッパ的価値観の変容 —21世紀のヨーロッパ学をめざして—	市販本 ミネルヴァ書房 「21世紀ヨーロッパ学 —伝統的イメージを検証する—」 3,000円
キリスト教文化研究センター	民族主義とキリスト教	市販本 新教出版社 「民族主義とキリスト教」 4,000円
特別研究プロジェクト	新教育方法の開発及び経営・技術戦略IT研究 (AMLII)	市販本 オーム社 「eラーニング実践法 —サイバーライアンスの世界—」 2,900円 AMLII研究叢書 第2巻 第1号～第5号

UAリーダーズレビュー誌上 UA LEADER OF THE YEAR 2002～2003の改革賞にノミネート

本学はユナイテッド航空の日本語版機内誌「UA LEADER'S REVIEW」(Vol.010 2003年1月10日発行)において、特集記事「UA LEADER OF THE YEAR 2002～2003」の「改革賞」にノミネートされました。この賞は「変貌著しく不安定成長の現代においても、大きく前進する意欲と可能性を秘めた、時代のリーダーたりうる企業」であり、かつ昨年の実績だけでなく、今年の大いなる飛躍の可能性も重視して選考されています。

本学は幾多の有名企業にまじり唯一大学として選出されました。結果はノミネートにとどまりましたが、誌上でキャンパス等が紹介されました。



News Index 2003.03～04 WEEKLY AOYAMAのタイトル紹介

2003年3月上旬～4月下旬までの主なタイトルを掲載しています。

03年3月

- 「第14回日本MRS学術シンポジウム」において大学院生2名が物質科学学術奨励賞を受賞
- 2002年度卒業研究(重里有三研究室)で可視光応答性新規光触媒の創製に成功
- サイエンスキャンプ「宇宙環境利用ミッション」の報告会開催
- 緑が丘グラウンドでサッカー教室「スキップ少年サッカー」開催
- 青山キャンパスからNHKニュース「おはよう日本」天気中継放映
- 大学・地域連携方策研究会主催、シンポジウムのお知らせ

03年4月

- 青山学院大学相模原キャンパスが完成
- モスクワ大学副総長が本学を表彰訪問
- 国際マネジメント研究科と日本政策投資銀行が再建のプロフェッショナルを育成
- 電気電子工学科で石膏ボードの電波吸収材の共同研究開始
- 「AMLコンソシアム第2回AML&A'ENオープンフォーラム」開催のお知らせ
- 高校1・2年生のための大学説明会のお知らせ
- 国際マネジメント研究科主催講演会「2003 Dean's Speaker Series」のお知らせ
- 青山学院大学公開講座「日本再生への課題—グローバル・コンテキストの中で—」のご案内
- イースター音楽礼拝のお知らせ
- 理工学部物理学科 秋光純教授が「Bernd T. Matthias Prize」を受賞
- 「第65回情報処理学会全国大会」で大学院生が学生奨励賞を受賞
- 2003年度課外教育プログラム「青山交流バスツアー」のお知らせ

新役職員紹介



経営学部長／経営学研究科長
佐藤 靖

長谷川 信教授は2003年3月末日をもって任期を満了し、後任には佐藤 靖教授が選任された。任期は2003年4月1日から2005年3月31日。大学院経営学研究科長を兼務。佐藤 靖教授は1960

年生まれ。東北大学大学院経済学研究科経営学専攻博士後期課程単位取得退学、博士（経済学）。名城大学商学部助教授、青森公立大学経営経済学部助教授を経て、1997年4月に本学経営学部に就任。1998年4月より教授となる。経営学部経営学科主任、経営学部長代理を歴任。会計学（キャッシュ・フロー会計論、財務分析論）を専門とし、日本会計研究学会、日本経営学会、日本簿記学会、日本経営分析学会、日本管理会計学会に所属。

国際マネジメント研究科長 伊藤 文雄

伊藤 文雄教授は2002年3月末日をもって任期を満了し、引続き同氏が国際マネジメント研究科長に再任された。任期は2003年4月1日より2年間。

情報科学研究センター所長 隆 雅久

理工学部機械創造工学科隆 雅久教授は2003年3月末日をもって任期を満了し、引続き同氏が情報科学研究センター所長に再任された。任期は2003年4月より2年間。

就職部長 仁科 貞文

経済学部中川 辰洋教授は2003年3月末日をもって任期を満了し、後任に文学部心理学科仁科 貞文教授が就任。任期は2003年4月より2年間。

学生相談センター所長 石井 光

法学部石井 光教授は2003年3月末日をもって任期を満了し、引続き同氏が学生相談センター所長に再任された。任期は2003年4月より2年間。

2002年度 退職専任教員

2002年度末日をもって退職された専任教員は次の方々です。（○印は定年退職された方であることを示します。）

- 岡井 晃 文学部教育学科教授
- 手塚 喬介 文学部英米文学科教授
- WHITTLE, J. 文学部英米文学科専任講師
- 柿田 秀樹 文学部英米文学科専任講師
- 石井 晴一 文学部フランス文学科教授
- 曾倉 岑 文学部日本文学科教授
- 片桐 一男 文学部史学科教授
- 針生 悦子 文学部心理学科助教授
- 三和 良一 経済学部経済学科教授
- 深川 由起子 経済学部経済学科助教授
- 武川 幸嗣 法学部法学科助教授
- GISH, G. W. JR. 経営学部教授
- 雨宮 剛 経営学部教授
- 小酒井 正和 経営学部経営学学科助手
- 高須 雄一 理工学部物理学科助手
- 戸塚 圭介 理工学部物理学科助手
- 中島 宏 理工学部物理学科助手
- 星 敏彦 理工学部化学科教授
- 光延 旺洋 理工学部化学科教授（2003年4月4日逝去）
- 山田 貴壽 理工学部電気電子工学科助手
- 中川 慎二 理工学部機械創造工学科助手
- 佐久間 章行 理工学部経営システム工学科教授

- 斎藤 正武 理工学部経営システム工学科助手
- 鈴木 哲 理工学部情報テクノロジー学科助手
- 関 洋平 理工学部情報テクノロジー学科助手
- 池井 優 国際政治経済学部国際政治学科教授
- 河野 勝 国際政治経済学部国際政治学科助教授
- 小菊 喜一郎 国際政治経済学部国際経済学科教授
- 城 経雄 情報科学研究センター計算機助手
- 池田 昌幸 国際マネジメント研究科
- 石川 昭 国際マネジメント専攻教授
- 国際マネジメント研究科
- 国際マネジメント専攻教授

その他の月日をもって退職された教員

- 齋藤 裕 経営学部経営学学科助手（2002年7月31日退職）
- 羽田野 直道 理工学部物理学科助教授（2002年8月31日退職）
- TAKEDA, M. B. 国際マネジメント研究科
- RUEDA de LEON, H.C. 国際マネジメント専攻助教授（2002年9月30日退職）
- 国際マネジメント研究科
- 国際マネジメント専攻教授（2002年12月25日逝去）
- 小沼 進一 法学部法学科教授（2003年2月9日逝去）
- RUSSELL II, F. D. 理工学部専任講師（2003年2月28日退職）

2002年度 学位授与式



3月25日（火）青山学院記念館において青山学院大学学位授与式が挙行されました。2002年度は、昼間部が3,388名、第二部が745名、合計4,133名の卒業生に学士の学位が授与されました。

2002年度 大学院学位授与式

3月27日（木）ガウチャー記念礼拝堂において2002年度青山学院大学大学院学位授与式が挙行されました。大学院研究科博士前期課程及び修士課程修了生329名に修士の学位が、また、博士課程修了生9名、論文博士2名に博士の学位が授与されました。

2003年度新任専任教員一覧

文学部教育学科

柳田 雅明

助教
生涯学習論
社会教育学
比較教育学



法学部

岡田 良雄

教授
刑事訴訟法



理工学部物理学科

山岡 和貴

助手
X線天文学



理工学部電気電子工学科

濱根 洋人

助手
計測制御工学
電子工学



理工学部経営システム工学科

中邨 良樹

助手
経営工学



文学部教育学科

吉仲 淳

専任講師
音楽教育
音楽表現



経営学部

DUFF, BRIAN RUSSELL

専任講師
英米文学
英語学



理工学部化学科

武内 亮

教授
有機化学



理工学部機械創造工学科

張 亜軍

助手
磁気軸受
ロボ制御



理工学部情報テクノロジー学科

磯 蘭水

助手
計算機アーキテクチャ
分散システム



文学部英米文学科

DIAS, JOSEPH VINCENT

助教
英語教育



経営学部

土橋 治子

専任講師
マーケティング論



理工学部化学科

阿部 二郎

助教
物性化学
光化学
量子化学



理工学部機械創造工学科

長 秀雄

助手
材料評価学
超音波工学



理工学部情報テクノロジー学科

市村 顕

助手
光実装技術



文学部英米文学科

DABBS, THOMAS WINN

教授(専任待遇)
British Renaissance Drama



国際政治経済学部国際政治学科

小倉 和夫

教授
国際政治
外交史



理工学部化学科

岩堀 史靖

助手
主に金属錯体を
対象とした
固体物性学



理工学部機械創造工学科

寺岡 喜和

助手
熱工学
伝熱学



理工学部情報テクノロジー学科

伊東 由佳

助手
生体情報工学



文学部フランス文学科

井田 尚

専任講師
フランス思想
フランス文学



国際政治経済学部国際政治学科

高木誠一郎

教授
国際政治学
比較政治学



理工学部化学科

熊谷 賢一

助手
物理化学



理工学部機械創造工学科

藤松 信義

助手
高速流体力学
数値流体力学
画像処理



理工学部情報テクノロジー学科

韓 東力

助手
自然言語処理



文学部日本文学科

小川 靖彦

助教
日本上代文学



国際政治経済学部国際経済学科

中兼和津次

教授
中国経済
開発経済



理工学部化学科

毛塚 智子

助手
有機合成化学



理工学部経営システム工学科

松本 俊之

助教
インダストリアル
エンジニアリング
(生産管理、作業訓練)



理工学部情報テクノロジー学科

森屋健太郎

助手
数値計算
ハイパフォーマンス
コンピューティング



文学部史学科

岩田みゆき

助教
日本近代史



理工学部物理学科

松川 宏

教授
物性理論



理工学部電気電子工学科

安藤 豊

助手
薄膜・材料物性



理工学部経営システム工学科

佐藤 秀明

助手
信号処理学



国際マネジメント研究科

鶴田 正春

教授
国際経営論



文学部心理学科

山根 律子

教授
発達障害学



理工学部物理学科

上野 貴裕

助手
物理学



理工学部電気電子工学科

武末 出美

助手
ナノデバイス



理工学部経営システム工学科

志田 敬介

助手
IE
動作研究



国際マネジメント研究科

松浦 祥子

教授
マーケティング・
コミュニケーション
ブランド戦略



経済学部

藤村 学

助教
開発経済学



理工学部物理学科

御領 潤

助手
理論物理学



理工学部電気電子工学科

名倉 剛

助手
システム制御理論



理工学部経営システム工学科

永井 義満

助手
信頼性理論
応用統計学



国際マネジメント研究科

牛島 辰男

助教
経営戦略論



経済学部

石橋 郁雄

専任講師
産業組織論



理工学部物理学科

宮原 慎

助手
物性理論



所属、氏名、役職、専門分野を掲載しています。

2002年度学生表彰

2003年3月7日(金)、青山キャンパス 総合研究所ビル第11会議室において、「2002年度学生表彰授与式」が行われました。この表彰は、学生が在学中に学業および学友会活動以外の多様な分野において人の範となる活躍または業績をあげ、その行為が本人および青山学院大学の荣誉となるものについて、広く内外に顕彰することを目的として行われるものです。

下記のとおり1団体を含む8名が受賞されました。

2002年度学生表彰 受賞者 ※学年は2002年度現在のものです。

- 有坂 太一(文学部教育学科4年)
第54回学生広告論文電通賞 大学生個人部門 佳作
(主催)株式会社電通 (後援)文部科学省
- 伊藤 丈人(国際政治経済学研究所国際政治学専攻1年)
2002年度CWAJ視覚障害奨励学生
(主催)College Women's Association of Japan
- 中村まづるゼミナール(全て経済学部経済学科3年)
日野 加奈子/三島 英治/有福 秀起/松本 圭吾
第5回公共選択学会「学生の集い」 最優秀賞(Aパート)
(主催)公共選択学会
- 水上 美季(文学部日本文学科4年)
第23回全日本短歌大会 学生の部B 日本歌人クラブ賞
(主催)日本歌人クラブ (後援)文化庁・毎日新聞社
- 西澤 聖哉(理工学部機械工学科4年)
第51回工業英検 平成14年度文部科学大臣奨励賞(3級)受賞
(主催)社団法人日本工業英語協会 (後援)文部科学省

国際政治経済学部生が 第18回テレコム社会科学学生賞入賞

2003年3月5日(水)、国際政治経済学部国際経営学科小林由弥君(4年)の論文「ブロードバンド時代の音楽産業—音楽流通システムの再編—」が第18回電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)



に佳作で入選。入賞者のほとんどが大学院生で占められるなか、学部生での受賞は画期的なことです。小林君より受賞論文についてのコメントをいただきましたので、以下に掲載します。

「もともと音楽産業をはじめとするエンターテインメント業界の動向に関心があり、今回受賞した論文のテーマは自分の興味や生活から自然に浮かび上がってきたものです。佳作に選ばれた理由も、論文の完成度というより、大学生としての率直な問題意識を論文として仕上げた点が評価されたのではないのでしょうか。論文執筆で苦勞したのは、経済学や政治学のような確立された学問領域の研究と異なり、教科書となる文献がないことでした。そのため、多くの文献・資料から必要な部分を抜き出したり、さまざまな所へインタビューに行ったり、新聞記事をこまめにチェックしたりと、予想以上に情報収集に時間を費やすことになりました。今回の論文執筆は、単に文章作成能力の向上だけではなく、私にとって第三者に自分の考えを伝える方法・手段について考える良いきっかけとなりました。社会に出てからもこの経験を生かしていくつもりです」

2002年度国家公務員I種試験 公認会計士試験、司法試験 合格者

- 国家公務員I種試験(2名)
坂部 健太郎(2003年国際政治経済学部卒) 武江 祐史(2003年法学部卒)
- 公認会計士試験(19名)
安彦 潤也(2003年経営学部卒) 池田 亜弓(1995年国際政治経済学部卒)
池田 かおる(1988年国際政治経済学部卒) 糸澤 真樹(2003年経済学部卒)
岩村 浩守(2002年経営学部卒) 大和田 昭(1995年経営学部卒)
小野坂 賢二(1997年経営学部卒) 近藤 哲也(1995年国際政治経済学部卒)
佐藤 純哉(1998年経済学部卒) 澤井 亜希(2000年経営学部卒)
正田 誠(2000年経営学部卒) 塚本 友紀(2002年経営学部卒)
津曲 滋郎(1996年法学部卒) 中澤 猛(1996年経営学部卒)
中瀬 敏明(1993年法学部卒) 野口 直宏(2000年経営学部卒)
森本 晃一(1995年経営学部卒) 山崎 修(1996年経済学部卒)
山崎 義人(1999年理工学部卒)
- 司法試験(7名)
辻 広司(1988年法学部卒) 高木 一昌(1995年法学部卒)
藍原 義章(1995年国際政治経済学部卒) 坂本 雅弥(1996年法学部卒)
遠山 志行(1995年法学部卒) 吉田 朋美(1996年法学部卒)
安永 恵子(1996年法学部卒)

「学生起業家選手権」で 優秀賞 本学学生グループが

2003年3月10日(月)、東京都と都中小企業振興公社共同開催「学生起業家選手権」決勝大会において、国際政治経済学部国際経営学科4年の甲斐斐太衛君、山本憲明君、小林由弥君らのグループ(いずれも岩井千明ゼミナール所属)が、応募79グループのうち上位3グループ(優秀賞)に選ばれました。「学生起業家選手権」は、新しい発想や感性に優れた学生起業家の育成を目的として公募され、優秀賞には会社設立資金が助成されます。甲斐君たちの企画は「渋谷発! pipで情報交換ブーム!」——表面に個人情報、裏面に企業広告を掲載した新感覚名刺「pip(ピッピ)」を渋谷に集まる若者に無料配布。この街から「pip」交換ブームを巻き起こし、さらに募金という形での社会貢献を果たす……というアイデアです。「世の中に対して“学生の力”をアピールしたい」という甲斐君は、今回の助成金を得て設立される有限会社「P・I・P」代表取締役役に就任予定。会社は6月10日(火)、その甲斐君の誕生日にスタートします。

「まずは、多くの青学生に“pip”を持ってほしい。パソコンや携帯電話からも申し込みができますので、下記のURLにぜひ一度アクセスしてみてください」

●有限会社「P・I・P」HP:<http://www.pip-boom.com>



写真提供:オンラインマガジン「べんべん」<http://www.venven.jp>
左より山本憲明君、甲斐斐太衛君、小林由弥君

2002年度 体育会優秀団体・選手表彰祝賀会

3月7日(金)アイビーホール
青学会館において「2002年
度体育会優秀団体・選手表
彰祝賀会」が開催されました。

祝賀会には、深町院長、半
田学長、沼田体育会長をはじめ、学部長、体育会各部の部
長、表彰団体監督および来
賓の方々、体育会本部および各部の幹部学生を含め、約200名が出席。
今年度は東都大学秋季リーグ戦と、東日本大会にて優勝を果たした軟
式野球部が最優秀団体に選出されました。

なお、表彰団体・選手の主要戦績は以下のとおりです。
2002年度体育会表彰団体・選手 ※学年は2002年度現在のものです。

- 【最優秀団体】
軟式野球部 東都大学秋季リーグ戦優勝 東日本大会優勝
- 【最優秀選手】
諸岡 奈央(済3) 空手道部 全日本学生選手権大会(形の部)優勝
篠原 星(国営3) 軟式野球部 東都大学秋季リーグ戦
東日本大会優勝最優秀投手賞
津田 弘二(営4) レスリング部 全日本学生選手権準優勝
全日本大学グレコローマン選手権(96kg級)優勝
長島 正彦(済3) レスリング部 全日本学生選手権大会
全日本大学選手権大会(66kg級)優勝
- 【優秀団体】
空手道部(女子) 関東大学選手権大会(形の部)優勝
全日本大学選手権大会3位
- 馬術部 全日本学生競技大会準優勝 東都学生競技大会優勝
バドミントン部(女子) 東日本学生選手権大会優勝
- 【優秀選手】
林 里奈(日4) 空手道部 関東学生選手権大会(形の部)優勝
伊藤 愛華(営4) 空手道部 関東学生体重別選手権大会 優勝
平川 太陽(機創3) 水泳部 関東学生選手権大会(200m個人メドレー)優勝
大江山 公信(営2) 水泳部 関東学生選手権大会(100m平泳)優勝
宮前 慶一(法2) 水泳部 関東学生選手権大会(100m背泳)優勝



- 長田 明子(営1) 水泳部 日本短水路選手権(50m)3位
関東学生選手権(100mバタフライ)優勝
- 岡田 麻伊(教2) 水泳部 関東学生選手権大会(100m個人平泳)優勝
山口 鏡乃(法1) 水泳部 関東学生選手権大会(800m自由形)優勝
渡部 英治(済4) ソフトテニス部(男子)全日本学生選手権大会(ダブルス)準優勝
新谷 嘉将(営4) ソフトテニス部(男子)全日本学生選手権大会(ダブルス)準優勝
丹治 賢(教1) ソフトテニス部(男子)東都大学選手権大会(ダブルス)優勝
石野 冬馬(済2) ソフトテニス部(男子)東都大学選手権大会(ダブルス)優勝
鈴木 和恵(済3) ソフトテニス部(女子)関東学生選手権(ダブルス)
関東学生インドア選手権(ダブルス)優勝
- 若林 真由美(済3) ソフトテニス部(女子)全日本学生選手権(ダブルス)準優勝
青木 美美(済4) ソフトテニス部(女子)全日本学生選手権(ダブルス)準優勝
高橋 美香(済3) ソフトテニス部(女子)東都大学選手権大会(ダブルス)優勝
加登 幸子(国済3) 卓球部(女子)全日本学生選手権大会(ダブルス)3位
小森 禎子(教3) 卓球部(女子)全日本学生選手権大会(ダブルス)3位
柳田 誠吾(済3) 軟式野球部 東都大学秋季リーグ戦優勝 最優秀選手
柳野 輝貴(営4) 軟式野球部 東日本大学選手権大会優勝 最優秀選手
成瀬 亜紀子(法4) 馬術部 関東学生競技大会(障害飛越)優勝
大熊 倫子(フ4) バドミントン部(女子)関東学生選手権
東日本選手権大会(ダブルス)優勝
- 中内 景子(日4) バドミントン部(女子)関東学生選手権
東日本選手権大会(ダブルス)優勝
- 黒川 真緒(営4) バドミントン部(女子)全日本学生選手権大会(ダブルス)準優勝
佐野 志緒梨(済1) バドミントン部(女子)全日本学生選手権大会(ダブルス)準優勝
木村 智香子(国政2) バレーボール部(女子)東アジア選手権大会 3位
工藤 健太(営4) レスリング部
全日本大学グレコローマン選手権(60kg級)優勝
- 【敢闘選手】
佐藤 良仁(済2) 陸上競技部
東京箱根間往復大学駅伝大会(選抜チーム)出場



2002年度体育会優秀団体・選手の表彰と祝賀会が3
月7日(金)に催され、この1年の活躍の頭着であった団体・
選手が表彰されました。本年度はいくつかのクラブが思わ
ぬ不振などで対象から外れてしまったこと、また表彰選手
の数も昨年より若干少ないようでもあり、そのあたりにい
ささか物足りなさをも感じました。選手諸君には更なる練
習を積みその結果を是非来年度の表彰の形であらわすよ
う期待します。(体育会長 沼田 哲 文学部史学科教授)

Club & Circle Information

問い合わせ先
〒150-8366 青山学院大学学生部学生課 Tel 03-3409-7835

2003年度主要活動予定(2003年5月~7月) *主な文化連合会・体育連合会の活動予定 ※下記大会・演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

- E.S.S.
◎第39回大木杯スピーチコンテスト 於:ガウチャー記念礼拝堂
- 演劇研究会
◎新人公演(6月)
- オーケストラ部
◎第82回定期演奏会(5/25) 於:府中の森芸術劇場
- オトリオ・ソサエティ合唱団
◎KAY合唱団第107回定期演奏会(6月)
- ギターアンサンブル
◎関東ギター連盟合同演奏会(6月)
- 写真研究部
◎写真展(6月)
- 放送研究部(A.B.S.)
◎前期サウンド見本市(6月)
- ロイヤルサウンズジャズオーケストラ
◎京王沿線大学ビッグバンドコンサート(5~6月)
◎トライアングルコンサート(6月)
- 居合道部
◎関東学生居合道新人戦(6月)
- 空手道部
◎関東学生春季リーグ戦(6月)
◎関東学生空手道選手権大会(6月)
◎全日本大学空手道選手権大会(7月)
- 弓道部
◎全関東学生弓道選手権大会(6月)
- 剣道部
◎第51回全日本学生剣道選手権大会(7月)
◎第37回全日本女子学生剣道選手権大会(7月)

- ゴルフ部
◎第51回関東学生ゴルフ選手権第1次予選会(6月)
- サッカー部
◎関東大学サッカー選手権大会(6月)
◎天皇杯予選(7月)
- 自動車部
◎全関東学生ダートトライアル選手権大会(6月)
- 射撃部
◎春季関東学生ライフル射撃選手権大会(6月)
◎東日本学生ライフル射撃選手権大会(6月)
◎全日本学生選抜ライフル射撃選手権大会(7月)
- 柔道部
◎全日本学生柔道大会(団体戦)(6月)
- 準硬式野球部
◎東都大学準硬式野球春季リーグ戦(5~6月)
- 漕艇部
◎東日本選手権(6月)
◎全日本軽量級選手権(6月)
◎全日本選手権(7月)
- ソフトテニス部
◎東日本学生大会(7月)
- 卓球部
◎関東学生卓球選手権大会(7月)

- チアリーディング部
◎関東学生チアリーディング選手権大会(6月)
- 軟式野球部
◎全日本大学軟式野球選手権大会(7月)
※春季リーグ戦で優勝した場合のみ
- 馬術部
◎関東学生馬術競技大会(6月)
- バスケットボール部
◎関東大学トーナメント戦(6月)
- バレーボール部
◎東日本インカレ(7月)
- ハンドボール部
◎春季関東学生ハンドボールリーグ戦(5~6月)
- ボクシング部
◎関東大学リーグ2回戦(7月)
- 陸上競技部
◎日本陸上競技選手権大会(6月)
◎全日本大学駅伝対校選手権大会(6月)
◎全日本学生陸上競技対校選手権大会(7月)
- レスリング部
◎全日本選抜選手権大会(6月)

2002年度活動報告(2003年3月) *主な文化連合会・体育連合会の活動内容報告

- 吹奏楽/バンドワリング部
◎アンサンブルコンサート(3/16) 於:府中の森芸術劇場

- グリーンハーモニー合唱団
◎フェアウェルコンサート(3/2) 於:ガウチャー記念礼拝堂

日本企業再生の条件

港 徹雄

国際政治経済学部国際経済学科教授

～ジャパンアズナンバーワンは復活するか～



1945年生まれ。大阪府立大学大学院経済学研究科博士課程退学。1973年から大阪府立商工経済研究所研究員を経て、1981年青山学院大学専任講師に。現在、同大学国際政治経済学部教授（産業組織論担当）。「企業間（大企業と中小企業）の取引と連携関係の国際比較」を専門とする。日本中小企業学会会長。

日本型企业間取引システムほど毀誉褒貶の激しいものではありません。日本の産業システムは、1960年代中頃までは日本産業の後進性の表象とみなされてきました。80年代になると、日本型システムは世界で最も洗練されたシステムと評価され、ジャパンアズナンバーワンと賞賛されるようになり、「醜いアヒルの子」は美しい白鳥に成長したのです。ところが、1990年代に入ると日本企業の収益性は悪化。かつての「教え子」であったフォード社やルノー社に買収されるようになると、日本型産業システムの評価は再逆転しました。

1960年代末から80年代末までの、わずか20年間に、「問題児」から「最優等生」にそして再び「問題児」へと日本型システムへの評価は劇変しました。こうした評価の逆転がなぜ生じたのかを明らかにするために、まず、どのような条件のもとで日本型システムが高い成果を達成することができたのか。第2に、どのような環境条件変化がそのシステムの有効性を損なわせたのか。第3には、日本型システムが競争優位性を再び獲得する条件は何なのかを検討されなければなりません。

日本ではその産業発展の過程で少数企業間の長期継続取引が経済制度として定着しました。こうした企業間取引関係は「系列」といわれ、工業部門での下請システムばかりではなく、流通部門における垂直的チャンネルコントロール、金融部門でのメインバンク制など広範な産業部門で一般化しました。この少数企業間の長期継続取引関係の形成が企業間取引のガバナンスにとって大きな効果を派生させたのです。その第1は、情報伝達費用をはじめとする取引費用を節減する効果。第2には、取引の継続性への確信が取引企業間で取引特定資産への投資を促し、日本企業の競争優位を支える「特定資産の経済性」を発揮させたことです。

日本企業の競争優位の源泉は、極言すれば

取引コスト節減と特定資産の経済性にありましたが、情報技術(IT)はこの日本企業の優位性を根底から覆す影響をも与えたのです。日本企業の優位性は企業家が意図して形成したと言うよりは、その産業発展過程で偶然に創られたものであり、経営者はその競争力の本質を理解していませんでした。したがって、それがIT革新によって弱体化するという事実気づかず競争力低下への備えを怠ったのです。

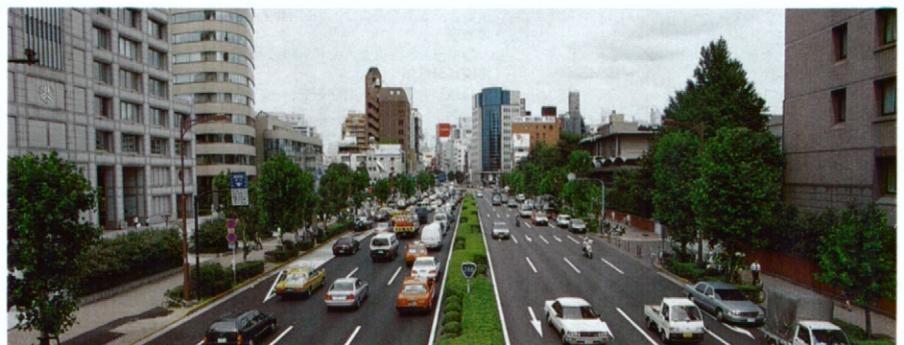
情報技術革新は従来の情報処理費用特性を逆転させました。つまり、これまでは処理すべき情報量が増えると費用はそれ以上の大きさで増大する費用通増性をもっていました。それゆえ少数間取引は取引費用を縮減させてきたのです。ところが、IT革新によって情報処理の費用特性は通減性へと変化し、情報量が増えても処理コストはほとんど増えなくなりました。

IT革新は同時に製造機器のデジタル化を進展させ、生産工程での特定資産投資効果を小さくし、さらにネットワーク化は製品互換の必要性を高め技術の標準化を進展させました。この結果、日本企業が得意とした生産プロセス革新や累積的製品差別化戦略の有効性を低下させたのです。IT革命時代にあっては、競争優位性を確保するには、従来のような取引コスト節減やプロセス・イノベーションではなく、製品アーキテクチャーレベルでの革新が不可欠です。事実、日本企業でプロダクト・イノベ

ションを遂行しうる企業は収益性を持続させています。

製品イノベーションを実現するためには、より高度な専門性、より直接的なインセンティブおよび迅速性を確保することが重要な前提です。この意味で中小・ベンチャー企業はイノベーションに有利な経営特性を備えています。情報革命は同時にネットワークの外部性など大規模組織の有利性をも強めています。規模の経済性と不経済性が同時に高まるのがIT革新の経済的本質であるわけです。したがって、大企業と中小・ベンチャー企業とが知的生産で連携することによって新たなイノベーションのフロンティアが広がります。

大企業と中小企業との共同開発事業のような企業間の緊密な協働を必要とする知的生産活動では、企業間に取引特定資産の蓄積と高度な信頼関係の形成が不可欠であり、そこに少数企業間の強い連携である「系列」を維持する意義が存在します。知的生産活動における系列は、中核企業によるイニシアティブを伴いますが基本的には対等な企業間連携です。下請システムのような支配・従属的連携に慣れ親しんできた日本企業が、こうした水平的企業間連携(ネットワーク組織)の運営・統御のノウハウを確立できるか、また、見えない財である知的財を見える(確認可能な)状態に変換する明示的取引の枠組みを構築できるかが、日本産業再生の条件となるでしょう。



青山キャンパス正門前の国道246号線

2003年度 地区父母懇談会のお知らせ

対象地区にお住まいの全学部・全学年のご父母を対象

青山学院大学では、大学後援会事業の一環としてご父母の皆様との連絡を密にし、ご子女に関する相談や本学に対するご意見等を伺い、それらを大学運営に反映させる目的をもって、父母懇談会を開催しています。



今年度の地区父母懇談会開催日程は下表のとおりです。対象地区にお住まいのご父母の方には、改めてご案内いたします。それ以外の地区にお住まいのご父母のご参加も可能です。事前に下記宛にお問い合わせください。なお、下表いずれの会場にご出席いただいても結構です。さらに東日本地区の3会場では、本学公開講演会も合わせて開催する予定です。

より多くのご父母の皆様の参加をお待ちしております。

問い合わせ先: 庶務部学長事務室 父母懇談会 担当

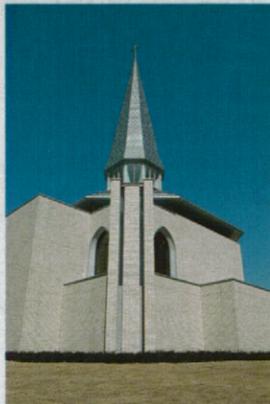
Tel: 03-3409-7955

対象府県	開催都市	開催日	会場
<西日本地区>			
滋賀県	京都市	7月12日(土)	新・都ホテル
京都府	京都市	7月12日(土)	新・都ホテル
大阪府	大阪市	8月10日(日)	リーガロイヤルホテル
兵庫県	神戸市	8月9日(土)	ホテルオークラ神戸
奈良県	奈良市	7月13日(日)	奈良ホテル
和歌山県	和歌山市	8月9日(土)	和歌山東急イン
鳥取県	鳥取市	9月14日(日)	ホテルニューオータニ鳥取
島根県	松江市	9月13日(土)	松江東急イン
岡山県	岡山市	7月27日(日)	アークホテル岡山
広島県	広島市	7月26日(土)	リーガロイヤルホテル広島
山口県	徳山市	8月3日(日)	ホテルサンルート徳山
徳島県	徳島市	8月23日(土)	ホテルクレメント徳島
香川県	高松市	8月31日(日)	高松東急イン
愛媛県	松山市	8月30日(土)	松山全日空ホテル
高知県	高知市	8月24日(日)	ホテルサンルート高知
福岡県	福岡市	8月2日(土)	ホテルニューオータニ博多
佐賀県	佐賀市	8月24日(日)	ホテルニューオータニ佐賀
長崎県	長崎市	8月23日(土)	ホテルニュー長崎
熊本県	熊本市	8月30日(土)	ホテルニューオータニ熊本
大分県	大分市	7月21日(祝)	大分東洋ホテル
宮崎県	宮崎市	7月20日(日)	宮崎観光ホテル
鹿児島県	鹿児島市	8月31日(日)	城山観光ホテル
沖縄県	那覇市	9月6日(土)	沖縄都ホテル
<東日本地区>			
茨城県	水戸市	9月20日(土)	三の丸ホテル
静岡県	静岡市	9月23日(祝)	ホテルセンチュリー静岡
新潟県	新潟市	10月13日(祝)	新潟グランドホテル

時間●10:30~14:30 会場によって時間が異なる場合があります

前期チャペルウィーク

5月19日(月)~24日(土)は前期チャペルウィークです。チャペルウィークは、春と秋の年2回、各界で活躍中のクリスチャンをお招きして大学礼拝でお話をさせていただく特別伝道週間です。



この期間は普段の大学礼拝とは異なり、教会の牧師や宣教師だけでなく、一般企業の要職にある方、社会福祉の現場で活動されている方、教育に携わっている方、音楽家の方などが、それぞれの分野での豊富で貴重なご経験をもとに、ご自身のお働きとキリスト教との関わりについて語ってくださいます。聖書に示される神様の愛と慈しみを、より身近に具体的なものとして受け止めることができるでしょう。

相模原キャンパス開学記念シンポジウム

2003年6月に、相模原キャンパス開学イベントとして青山キャンパス、相模原キャンパスにおいて「ノーベル賞受賞者招へい公開シンポジウム」をはじめとした各種シンポジウムを開催します。

「相模原キャンパス開学記念シンポジウム」統一テーマ: 近未来の科学と社会

●公開シンポジウム「科学と宗教」

6/3(火) 18:00~ 青山キャンパス総合研究所ビル12階大会議室

講演者 マーガレット・イー氏(オックスフォード大学教授)

コメンテータ 稲垣久氏(東京基督教大学教授)

●ノーベル賞受賞者招へい公開シンポジウム

「情報と社会福祉—非対称情報下におけるインセンティブ設計—」

6/4(水) 14:30~ 青山キャンパス総合研究所ビル12階大会議室

講演者 ジェームズ・マーリース氏(ケンブリッジ大学教授) 他

「ニュー・エコノミーと生活の質」

6/5(木) 15:00~ 相模原キャンパスウェスレー・チャペル(C棟)

講演者 ジェームズ・マーリース氏(ケンブリッジ大学教授)

※なお、2003年秋にも理工学関連等の分野において、シンポジウムを開催予定です。

※詳細については、本学ホームページをご覧ください。

問い合わせ先 庶務部学長事務室 開学記念シンポジウム担当

Tel. 03-3409-7955

2003年度相模原キャンパス公開講座

市民大学 青山学院大学コース 相模原キャンパス

国際社会の見方 11月8日(土)~12月6日(土) 毎週土曜日

11/8(土) 9.11以後の国際政治

—セキュリティ・パラドックス時代の安全保障—

国際政治経済学部教授 土山 實男

11/15(土) マーケティングからみた国際社会

—日本のマーケティングは世界に通用するか—

経営学部教授 小林 保彦

11/22(土) 言語からみた国際社会—主導権を握る英語: イギリス英語は今—

経済学部教授 玉木 隆敏

11/29(土) 法律からみた国際社会—インターネットは誰のもの?—

法学部教授 江泉 芳信

12/6(土) 経済からみた国際社会—為替相場の教えるもの—

経済学部教授 中澤 進一

定員: 250名

受講資格: 相模原市に在住・在勤の15歳以上の方(学生は除く)

受講料: 無料

時間: 14:30~16:00

会場: 青山学院大学 相模原キャンパス E102教室

申込期間: 7月1日(火)~7月8日(火)(必着)

申込方法: ハガキに、コース名・氏名(ふりがな)・住所・年齢・電話番号をご記入のうえ、お申込ください。

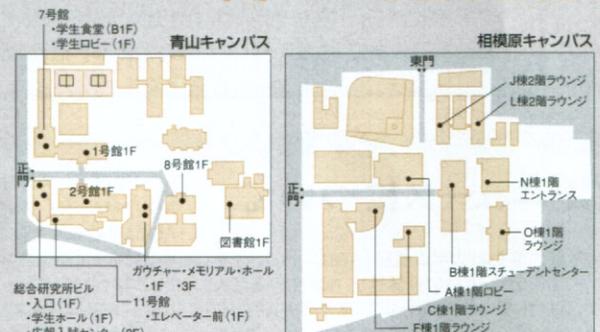
(「広報さがみはら」7月1日発行に詳細掲載予定)

申込先: 〒229-0039 相模原市中央3-12-10

相模原市教育委員会 総合学習センター

TEL.042-756-3443

AGUニュース専用スタンド設置箇所案内図



2003年度 進学相談会開催日程

青山学院大学では、本学受験を希望する受験生に情報を提供し、本学への理解を深めていただくため、5月下旬から9月下旬にかけて開催される進学相談会に参加しています。7月までの開催日程は下記の通りです。

6/12(木)	面鏡	ベルクラシック面鏡	7/12(土)	新宿	新宿NSビル
6/14(土)	札幌	アスティ45	7/26(土)	横浜	パルティコ横浜
6/20(金)	山形	ホテル外口ボリタン山形	6/3(火)	甲府	ベルクラシック甲府
6/23(月)	秋田	秋田キャッスルホテル	6/5(木)	長野	ホテル外口ボリタン長野
6/24(火)	盛岡	ホテル外口ボリタン盛岡	6/7(土)	新潟	新潟市民プラザ
6/25(水)	青森	青森広瀬ホテル	6/19(木)	金沢	金沢市文化ホール
6/28(土)	仙台	アエル	6/20(金)	富山	ポルフォートとやま
7/9(水)	いわき	磐梯苑	6/14(土)	名古屋	ナディアパーク
7/10(木)	郡山	郡山市民文化センター	6/17(火)	静岡	ツインメッセ静岡
7/11(金)	福島	福島グリーンパレス	6/18(水)	浜松	アクトシティ浜松
7/19(土)	仙台	仙台国際センター	6/21(土)	大阪	梅田クリスタルホール
6/10(火)	宇都宮	マロニエプラザ	5/31(土)	広島	基町クレド
6/13(金)	高崎	高崎サンパレス	6/2(月)	福山	福山ニューキャッスルホテル
6/19(木)	水戸	水戸プラザホテル	6/3(火)	岡山	岡山ロイヤルホテル
5/31(土)	池田	サンシャインシティ	6/12(木)	鳥取	ホテルモナーク鳥取
6/4(水)	大宮	ワールドインポートマート	6/13(金)	米子	ビッグシップ(米子イベントセンター)
6/7(土)	千葉	大宮パルクシティ	6/14(土)	松江	くにびくむす(鳥取県立産業文化会館)
6/10(火)	川越	川越プリンスホテル	6/5(木)	鹿児島	鹿児島東急イン
6/11(水)	横浜	横浜新都ビル(横浜そごう)	6/6(金)	熊本	熊本市国際交流会館
6/12(木)	渋谷	渋谷エクセルホテル東急	6/7(土)	福岡	西鉄ホール
6/13(金)	新宿	新宿NSビル	7/5(土)	福岡	エルガラホール
6/14(土)	新宿	新宿NSビル	7/10(木)	那覇	国場ビル
6/20(金)	相模大野	小田急ホテルセンチュリー相模大野	7/11(金)	那覇	国場ビル

※開催日、会場等は変更になる場合がありますので、広報入試センター広報課にお問い合わせください。

大学紹介パンフレット申込方法

大学紹介パンフレット「進学案内2004」「入学試験データ&ガイド2004」が6月上旬に完成する予定です。大学紹介パンフレットをご希望の方は6月以降に本学ホームページまたは下記方法にてお申し込みください。(なお、社会人対象のパンフレットも用意しております。ご希望の方は下記まで)

※テレメール(自動音声応答電話)をご利用ください。(24時間受付可能です)

●お住まいに近いいずれかの番号に電話してください。

●音声ガイダンスにしたがって資料番号をダイヤルしてください。

TEL 東京 03-3222-0102 名古屋 052-222-0203

大阪 06-6222-0102 福岡 092-433-0102

資料番号 大学紹介パンフレット 394000(送料共無料)

社会人対象パンフレット 394420(送料共無料)



2003年度 オープンキャンパス

■オープンキャンパス

(受験生のみならず、高校1・2年生、保護者のご来場もお待ちしております。)

青山キャンパス(全学部対象)

●7月20日(日)/9月13日(土) 10:00~17:00(受付:9:30~16:00)

開催内容:歓迎礼拝/パイプオルガンコンサート/ハンドベルコンサート(9月のみ開催)/大学紹介、入試概要紹介/保護者を対象とした大学ガイダンス/全学共通教育システム「青山スタンダード」概要紹介/学部学科紹介/英語入試問題解説/各学科模擬授業/個別進学相談/英文学教科教員による「LL模擬授業」/留学説明会/学生生活・就職・教職課程個別相談/在学生による合格体験トークライブ&個別懇談会/在学生によるEnglish・Speaking・Live(日本語同時通訳付)/大学紹介ビデオ上映(日本語版・英語版)/リスニング試験体験/一般入試過去問題集配布(2002・2003年度/CD-ROM版)/入学試験場公開/資料閲覧/構内施設自由見学等を予定しています。

★オープンキャンパスボランティア募集中

約13,000名の受験生が来場するオープンキャンパスにて、受付・案内などの作業をボランティアでお手伝いいただける学生を募集しています。募集要項の配布、申し込み受付は、学生部学生課(青山キャンパス)および学生センター・学生生活グループ(相模原キャンパス)にて、6月13日(金)まで行っています。

■社会人のためのオープンキャンパス

青山キャンパス●7月26日(土)14:00~17:30

内容:学部学科・研究科専攻紹介、教員・在学生との懇談等を予定しています。

※オープンキャンパスの開催内容・時間については、6月上旬以降、本学ホームページでご確認ください。

問い合わせ先 広報入試センター広報課

Tel 03-3409-8626(ダイヤルイン)



歴代院長とその時代

8



おがたせんのすけ 小方仙之助

第3代院長(1909~1913年在任)

1873(明治6)年、20歳で米国に留学し、滞米中に受洗。
1885(明治18)年、デポー大学卒業後、米国のメソジスト
監督教会本部から日本に宣教師として派遣され、東京英和学校(青山学院の前身)で英語を教え、1889(明治22)年には同校の校主となりました。以後、東京、名古屋連回区などの長老司として活躍し、1907(明治40)年、本多庸一院長の後を受け院長代理を務め、1909(明治42)年、第3代青山学院院長に就任。「温厚、和平、才学を衒わず君子の風あり」と評される人柄で、キリスト教主義教育と伝道を自らの使命

と任じ、院長としての報酬を受け取りませんでした。また、学ぶ意欲を持ちながら、家が貧しく修学が困難な若者に仕事の世話をし、奨学金制度を設けるなど、奉仕の精神を貫き通した人物として知られています。院長退任後は、日本メソジスト教会東京部長として伝道に専念しました。



明治時代末期の日曜学校風景(青山学院構内)

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方へ送付しています。あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開設。「AGUニュース」の内容を抜粋して掲載するとともに、大学のタイムリーなニュー

スを簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AOYAMA」ページも設けております。さらに「Weekly AOYAMA」につきましては、2週分のニュースの中から主要な記事を抜粋し、在学生を対象に「AGUニュースレター」として学内のAGUニュース専用スタンドにて配布しています。なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

事務取扱窓口

青山キャンパス→学生部厚生課

相模原キャンパス→学生センター・学生生活グループ

AGUニュースのバックナンバーはこちらでご覧ください。

<http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>

広報入試センター広報課●2003年5月20日発行●